



平成 29 年 7 月 21 日
内閣府（防災担当）

平成29年度 大規模地震時医療活動訓練について

1 訓練の趣旨

南海トラフの地震を想定し、南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画（平成 29 年 6 月改定）等に基づく大規模地震時医療活動に関する総合的な実動訓練を実施して、当該活動に係る組織体制の機能と実効性に関する検証を行うとともに、防災関係機関相互の協力の円滑化を図る。

2 訓練の概要（別紙参照）

実施日	平成 29 年 7 月 29 日（土）8 時 00 分～18 時 00 分
訓練想定	南海トラフ地震により、三重県、大阪府、兵庫県、和歌山県に甚大な被害発生を想定
参加機関	内閣官房、内閣府、警察庁、消防庁、厚生労働省（DMAT 事務局含む）、国土交通省、海上保安庁、防衛省、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社 宮城県、新潟県、滋賀県、三重県、大阪府、兵庫県、和歌山県、関西広域連合
訓練場所	<航空搬送拠点臨時医療施設（SCU）等> 三重県広域防災拠点（三重県）、八尾SCU、史跡難波宮跡、岸和田市中央公園（大阪府）、大阪国際空港（大阪府・兵庫県）、但馬空港、三木総合防災公園、南あわじ市文化体育館（兵庫県）、南紀白浜空港、コスモパーク加太、和歌山下津港（和歌山県）
	<域外搬送拠点臨時医療施設（SCU）> 仙台空港、新潟空港、滋賀医科大学、滋賀県立大学

3 取材について

- (1) 航空搬送拠点臨時医療施設（SCU）等では、三重県広域防災拠点、史跡難波宮跡、岸和田市中央公園、大阪国際空港、但馬空港、三木総合防災公園、南あわじ市文化体育館、南紀白浜空港、コスモパーク加太、和歌山下津港（臨時SCU）、域外搬送拠点臨時医療施設（SCU）では、仙台空港、新潟空港、滋賀医科大学、滋賀県立大学で取材ができます。
- (2) 上記各拠点における取材については、原則として入場登録等が必要です。つきましては、その事前手続きをはじめ取材の詳細については、訓練参加府県担当課にお問合せ下さい。また、取材については、訓練の妨げにならないよう、現地担当者の指示に従ってください。

<問合せ先>

○内閣府（防災担当）

災害緊急事態対処担当 参事官補佐 三瀬
TEL 03-3502-6047(直通)

地方・訓練担当 参事官補佐 三枝
TEL 03-3503-9394(直通)

○訓練参加府県担当課

三重県健康福祉部医療対策局地域医療推進課
TEL 059-224-3370

大阪府健康医療部保健医療室医療対策課
TEL 06-6944-9168

兵庫県健康福祉部健康局医務課
TEL 078-362-4351

和歌山県福祉保健部健康局医務課
TEL 073-441-2604

宮城県保健福祉部医療政策課
TEL 022-211-2622

新潟県福祉保健部医務薬事課
TEL 025-280-5183

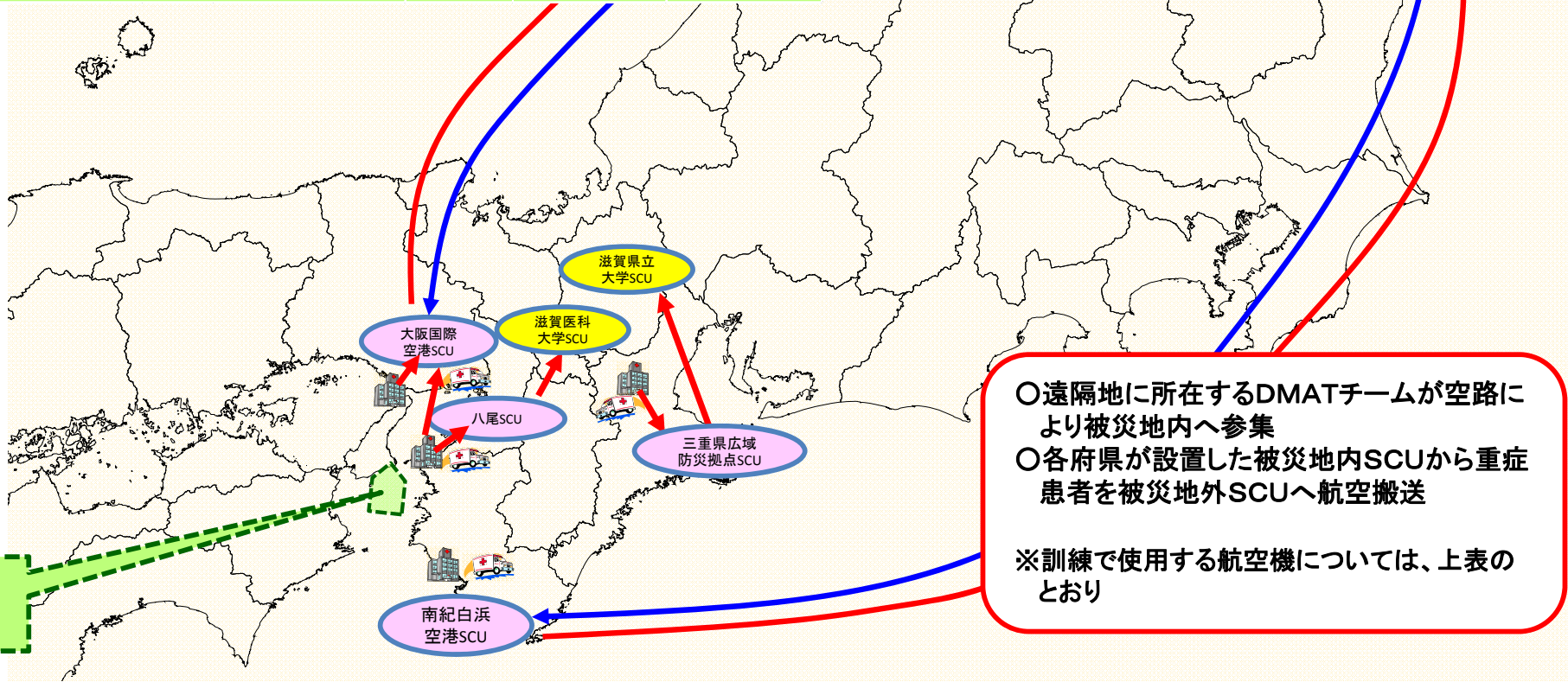
滋賀県健康医療福祉部医療政策課
TEL 077-528-3625

機体運用案および訓練計画

目的	発SCU	着SCU	使用機体	備考
DMAT参集 (空路)	① 宮城県 仙台空港 ⇒ 和歌山県 南紀白浜空港	固定翼機 C-130H (空自)		
	② 新潟県 新潟空港 ⇒ 大阪府兵庫県 大阪国際空港	固定翼機 C-130R (海自)		
広域医療搬送	③ 三重県 三重県広域防災拠点(伊勢志摩拠点) ⇒ 滋賀県 滋賀県立大学	回転翼機 CH-47 (空自)		
	④ 和歌山県 南紀白浜空港 ⇒ 宮城県 仙台空港	固定翼機 C-130H (空自)	①の機体を使用	
	⑤ 大阪府 八尾SCU ⇒ 滋賀県 滋賀医科大学	回転翼機 EC225 (海保)		
	⑥ 大阪府兵庫県 大阪国際空港 ⇒ 新潟県 新潟空港	固定翼機 C-130R (海自)	②の機体を使用	
政府艦船を用いた訓練	⑦ 和歌山県 和歌山下津港 (接岸・移動なし)	輸送艦	自衛隊艦	

凡例

- 患者搬送の流れ (赤い矢印)
- DMATの流れ(参集) (青い矢印)
- 域内拠点 (ピンクの枠)
- 域外拠点 (黄色の枠)



- 遠隔地に所在するDMATチームが空路により被災地内へ参集
 - 各府県が設置した被災地内SCUから重症患者を被災地外SCUへ航空搬送
- ※訓練で使用する航空機については、上表のとおり

政府艦船を用いた
臨時SCU設置等訓練
【和歌山下津港】

平成29年度大規模地震時医療活動訓練 (DMAT参集計画)

